

2024年1月24日

目線を変える

林 但

「みんなのスポーツ」12月号で紹介された、信じられますか？ 山形県酒田市では、モルック・ボッチャをするために「図書館」に行列！ができています。ニュースポーツの紹介・イベントを企画したがうまくいかない、そこで移転計画を機に図書館。図書館でスポーツなんてと思いましたが、冊子を読んでいてスポーツ振興課のコメントに、「図書館でスポーツを実施することで、子ども連れの母親のスポーツ実施につながるなどうれしい誤算がありました」こういう考え方もあるかと感じ目から鱗でした。

ゴルフを見ていると、ゴルファーがボールをカップに沈めるために、グリーン上を歩き回り、違った位置からボールを見ている。実際に身体を動かし目線を変えるのは、固定した場面から全体を把握すること、また、主観に頼らず、より客観的に事態を把握する難しさからくるのでしょうか。

一方、私たちは日常自分なりのルーティンで動いています。それは思考、行動面で、脳の負担を軽くしようとする本能からです。しかし、仕事でも、人生でも勝負事同様に、重要な局面は静かに訪れます。そこでは、やはり大局的に、客観的に、思考を集中させなければいけない、適当にする判断を誤ってしまいます。

だから、時には意識的に己の主観を揺さぶる行動をとってよいのではないのでしょうか。会議の場所を変える、寄り道をする。全く逆方向から、相手の立場に立って考えるなど、目線を変える些細な工夫が、自分の成長を促してくれると私は思います。

先日読んだ、野球と人生～最後に笑う「努力」の極意～（野村克也著）にもライバルであった、長嶋茂雄や王貞治との中で、「目線をかえ」頭を使ってテスト生上がりの野村さんも一流に勝てる極意、球界きっての知将がたどり着いた、仕事、勝負、生き様などにもつながっていると感じました。



冊子の表紙：図書館でボッチャ